

Eco-DRRに関する仙台宣言

東日本大震災は、東北の太平洋沿岸に大きな災害をもたらしました。この地域は、豊かな海の恵みにより特有の文化と産業が発展してきた歴史があり、復興にあたっては、この豊かな恵み、すなわち東北沿岸の生態系サービスを健全に保つことが重要です。しかし、海岸の巨大な防潮堤など、従来のハードウェアを中心とした防災・減災策を中心とした復興が図られようとしています。

近年、注目されている生態系を基盤とした防災・減災(Ecosystem-based Disaster Risk Reduction)は、郷土の豊かな自然や文化を保つとともに、経済的にも効率がよく復元力の高い対策です。自然や生態系の恵みに依存して文化や産業が発展してきた地域には特に重要な防災減災の方法であり、東北地方に限らず、広くさまざまな地域や国で実践が可能です。今日、私たちは東日本大震災による東北沿岸域の被害とその回復についての実例をもとに、Eco-DRRの有効性を再認識しました。したがって、関係各団体に、今後の防災・減災対策には、土木技術によるインフラの利点を生かしつつも、Eco-DRRの考え方を積極的に取り入れて行くべきことを強く訴えます。

2015年3月15日

第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム

「沿岸生態系を活用した防災と減災：Eco-DRRの主流化と課題」

参加者一同

